

# “まごころさん”的一日。

“まごころさん” 今日も元気にお届けします！

皆さまにお弁当やお惣菜をお届けしているのは、ご存じ「まごころスタッフ」です。全国42都府県に約7700人、80代の方を筆頭に、さまざまなお仕事で活躍しています。

今月号では、「働くママまごころさん」の代表として、庄司菜美さん（福島中央営業所）の1日に密着。温かな心も運ぶ“まごころさん”的仕事の魅力を聞きました。



いはに  
宅食

第9回

お弁当の入った箱を車に積み込む庄司さん。娘の結依菜ちゃんと一緒に、1日に約25軒のお届けをしています。

毎日お会いするから、  
ささいなことにも気付き合える。  
一緒に笑顔になれるのが  
うれしいです。



庄司菜美さん  
(福島中央営業所)

「まごころスタッフ」になって約1年、小学2年生の息子さんと、1歳6か月になる娘の結依菜(ゆいな)ちゃんを育てながら働くママ。「お客さまと心が通ったと思える瞬間が、この仕事のやりがいになっています」



「『まごころさん』の庄司さんはとても気付く方で、楽しく毎日、言葉を交わしています。たまに結依菜ちゃんを連れて来てくれるのもうれしいですね」と、お客様の加藤和子さま。



いの体調やささいな変化に気付  
き合いながら、親密な関係がで  
きていく。いろいろな方と交流  
させていただくのはとてもうれ  
しく、ありがたいことだなと思  
います」

お届け先に娘の結依菜ちゃん  
を連れていくと、「まるでご自分  
の孫のようにかわいがってくれ  
るんですよ」と笑う庄司さん。

「お客様に子育てのことを相  
談することもあります。ママと  
して先輩の方々だから、アドバ  
イスや励ましをいただく、と  
ても心強いのです。また、営業  
所には子ども連れで働くママが  
多く、みんなで子どもたちの成  
長を見守っている安心感があり  
ます。お客様にも営業所のス  
タッフにも、地域みんなで育て  
ていただいている感じが  
すくうれしいのです」

お客様へのお届けを  
通じて、笑顔が広がつ  
いく。「『まごころさん』に  
なつて良かったと、庄司  
さんは結依菜ちゃんと  
もにほぼ笑むのでした。

次ページでは「『まごころさん』の  
1日をご紹介します

子どもを連れながら仕事がで  
きること。それが、庄司さんが  
「まごころスタッフ」の募集に応  
募した一番の理由でした。

「子どもの成長はとても早いの  
で、できる限り一緒にいて、そ  
の姿を見てあげたいという思い  
がありました。また福島市には  
待機児童の問題があり、子ども  
を保育所に預けることが難しい  
のです。だから子どもと一緒に  
働ける『ワタミの宅食』は、と  
てもありがたい職場でした」

最初は、「お弁当を届けるだけ」の仕事だと思っていたとい  
う庄司さん。けれど、いざお届  
けを始めるとなれば、「心の通り合ひ」  
こそが「まごころスタッフ」と  
いう仕事のやりがいであります。大  
切なことなどわかつたと言  
います。

「毎日、お客さまとお会いして  
いると、『何だか今日は元気な  
んじゃないですかね』とか、ち  
ょつとした変化に気付くことができます。これ、実は私も見  
いただいているのですね。お互  
いに」

# お届けするのはまごころです

皆さまのご自宅にお弁当やお惣菜をお届けしている「まごころスタッフ」は、普段どんな仕事をしているのか。前ページに登場した庄司さんのある1日に密着しました。



## 女性が安心して働ける職場環境を提供しています



「営業所のメンバーは、一つの目標に向かって一緒に取り組んでいく、心強い仲間たちです」と話す所長の梅津(写真右)も、小3の息子を持つ働くママです。

在籍している「まごころスタッフ」18名中、13名が働くママ。庄司さんも所属する福島中央営業所は、子どもと一緒に働く「まごころさん」が多いのが特色です。

「スタッフたちが安心して働けるよう、所内に児童用のサークルを設けています。夏休みには、机で宿題をこなす子どもたちも。ここに来る子どもたちを、スタッフみんなで見て、育てている感じです」と、所長の梅津史実(うめつひとみ)。

「仕事についても子育てについても、相談できる先輩たちがいる。この環境があるから、お客様との関係も温かいものになるのだと思っています」と話す梅津でした。

# 全国に約7,700人の「まごころスタッフ」があなたの元にお弁当とまごころをお届けします。

前ページまでは、子育てをしながら働く「まごころスタッフ」の1日をご紹介しましたが、いかがでしたでしょうか。全国には約7,700人の「まごころスタッフ」が働いています。このページではその中から、3組の個性ある方々をご紹介します。



お客さまに感謝しながら夫婦でお届けしています。  
岡田弘さん(85歳)・道子さん(80歳)

### ●名古屋名東営業所

運転好きな道子さんの誘いで、2人でお届けをするようになった岡田さん夫婦。「私たちの年齢で、毎日元気にお届けできるのは喜ばしいことですね」と道子さん。「自然から授かった大切な食物を大切な隣人にお渡しできる。お客さまに感謝しながら働いています」と弘さん。夫婦二人三脚のお届けは6年目に入りました。

車の運転は道子さん。営業所長いわく「あうんの呼吸で助け合う、素敵なお2人です」とのこと。

自転車のお届けで健康に!  
季節ごとの大変さにも負けません。

### ●東京大田羽田営業所

毎日20数軒、電動自転車でお届けをする阜山さん。「特に運動はしていませんが、自転車でのお届けが体力増進や健康維持に役立っています」と笑います。「お客さまの『ありがとうございます』がこの仕事のやりがい。お届け中に切れてしまった電動自転車のバッテリーを貸してくださいなど、優しい皆さんに支えられています」。



お届けには電動自転車を使用しています。



趣味の写真を営業所に展示。  
充実した日を過ごしています。  
●茨城下妻営業所

定年後、自分の時間を大切にしながら働ける場所として「まごころスタッフ」を選んだ前野さん。趣味の写真撮影は、賞を取ったこともあるほど腕前。営業所にはミニ展示コーナーもあるのだそう。「人生の先輩方へのお届けをする中、刺激を受けることもしばしば。趣味の時間も満たされ、充実した日々です」。



多数の作品がコンテストで入賞。下は第3回「ワタミの宅食」写真・イラスト大賞の入賞作品です。